

令和4年度 文部科学省委託
「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業
(特別な配慮を必要とする幼児への
指導の充実に関する調査研究)」

障害による困難さを 体験してみよう

特別な配慮を必要とする
幼児への指導の充実プログラム 疑似体験編

説明書



令和5年3月
国立大学法人 愛媛大学

目次

1. 見えにくさの疑似体験…………… |
2. 聞こえにくさの疑似体験…………… |
3. 動きづらさ・かきづらさの疑似体験…………… 2
4. 言葉の理解しづらさの疑似体験…………… 3

1. 見えにくさの疑似体験

- アイマスクをつけて行動してみる。

全く見えない状況、全盲の体験になります。



- メガネにリップクリームを塗り、それをかけて行動してみる。

視界がぼやけていたり、視力が低かったりする弱視の体験になります。



◇見えにくさに関する観察の視点や支援の手立てについては、「さまざまな障害に応じた適切な支援とは～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～」の「第2章 a.見え方の困難」で解説されています。

さまざまな障害に応じた適切な支援とは
～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～
第2章 それぞれの困難に応じた支援 <a.見え方の困難>
https://youtu.be/GlfZ_5U9YZc



2. 聞こえにくさの疑似体験

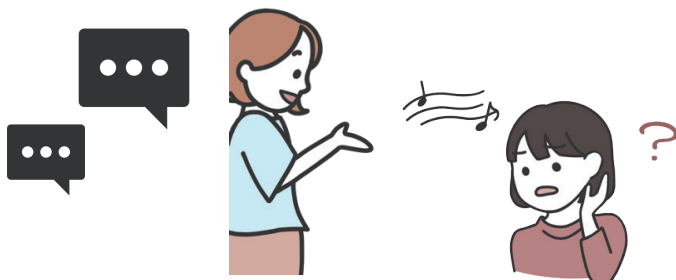
- 耳栓をして、模擬授業を受ける。

全く聞こえない状況、全聾の体験になります。



- 音楽を流しながら、模擬授業を受ける。

聞きたい音声がかきにくさの状況、難聴の体験になります。



◇疑似体験で感じたことが園内で必要な工夫に気づくきっかけになります。

◇聞こえにくさに関する観察の視点や支援の手立てについては、「さまざまな障害に応じた適切な支援とは～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～」の「第2章 b.聞こえ方の困難」で解説されています。

さまざまな障害に応じた適切な支援とは
～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～
第2章 それぞれの困難に応じた支援 <b.聞こえ方の困難>
<https://youtu.be/Co556YJt-6s>



3. 動きづらさ・かきづらさの疑似体験

1. 「運動会の絵を描いてみよう」

- ① クレヨン、自立する鏡、コの字型段ボール箱、白紙を準備します。
- ② 白紙の上に箱を設置し、正面には鏡を設置します。
- ③ 鏡に映った紙を見ながら、運動会の絵を描いていきます。

2. 「迷路で遊ぼう」

- ① 迷路がかかっている紙と自立する鏡、コの字型段ボール箱、鉛筆を準備します。
- ② 迷路の紙の上に箱を設置し、正面には鏡を設置します。
- ③ 鏡に映った迷路を見ながら、鉛筆で迷路をすすめていきます。

「自分の思うようにはかかない」といった状況の体験になります。
体験者以外の方が、「早くしなさい」のように急かすような言葉がけをすると、子どもたちの焦りやストレス負荷の体験にもなります。



◇動きづらさに関する観察の視点や支援の手立てについては、「さまざまな障害に応じた適切な支援とは～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～」の「第2章 c.動きの困難」で解説されています。

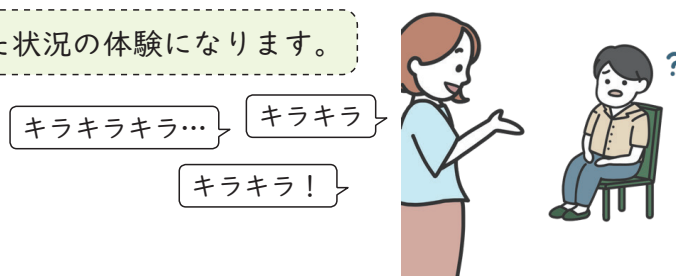
さまざまな障害に応じた適切な支援とは
～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～
第2章 それぞれの困難に応じた支援 <c.動きの困難>
<https://youtu.be/opT3g9HF0mo>



4. 言葉の理解のしづらさの疑似体験

- ① お題となる1つのキーワードを決めます。
例) オノマトペ：キラキラ、ガタガタ、ドンドン など
カタカナの単語：オリンピック、リサイクル、ボランティア など
- ② 発する音声言語を、キーワードだけに絞って、子どもたちとの活動の模擬をします。
例) 朝の会の模擬を「キラキラ」で行う場合
「立ちましよう」→「キラキラ」
「座りましよう」→「キラキラ」
「これから、朝の会を始めます」→「キラキラ、キラキラキラ、キラキラ」
全ての言葉を、「キラキラ」で指示をしたり言葉をかけたりします。

「音声言語がわからない」といった状況の体験になります。



◇言葉の理解のしづらさに関する観察の視点や支援の手立てについては、「さまざまな障害に応じた適切な支援とは～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム実践編～」の「第2章 d.言葉の困難」で解説されています。

さまざまな障害に応じた適切な支援とは
～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 実践編～
第2章 それぞれの困難に応じた支援 <d. 言葉の困難>
<https://youtu.be/bGX06YEsVGA>



ファシリテーター用動画教材

- 愛媛大学教育学部特別支援教育講座YouTubeチャンネル
障害による困難さを体験してみよう
～特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実プログラム 疑似体験編～
<https://youtu.be/dnuUmlUX8nU>



研修にて、疑似体験を実施される方へ

研修を実施する上で疑似体験をする際は、より深く学ぶためにも、可能な限り、お近くの教育委員会の特別支援教育担当部署の指導主事もしくは近隣の小学校や特別支援学校の特別支援教育コーディネーターにご相談ください。



本教材は、文部科学省の令和4年度「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」（特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究）の委託研究として、国立大学法人愛媛大学が研究成果の一部をまとめたものであり、本教材の複製、転載、引用等については文部科学省の承諾が必要です。

疑似体験

体験してみよう

年 月 日 氏名：

① 実施した疑似体験にチェックをいれましょう。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 見えにくさの体験（アイマスク） | <input type="checkbox"/> 見えにくさの体験（メガネ・リップクリーム） |
| <input type="checkbox"/> 聞こえにくさの体験 | <input type="checkbox"/> 動きづらさ・かきづらさの体験 |
| <input type="checkbox"/> 言葉の理解しづらさの体験 | |

② 体験をしてみて、気付いたこと、考えたことを書いてみましょう。

--

③ 体験を通して、有効だと思った園での現在の工夫を書いてみましょう。

--

④ 体験を通して、加えたい、やってみようと思った園での工夫を書いてみましょう。

--

体験してみよう ワークシートの使い方・解説のポイント

② 体験をしてみて、気付いたこと、考えたことを書いてみましょう。

ポイント🔒

- 疑似体験をする前に想像していた困難さと、実際に体験して感じた困難さとどのような点が違ったか、新しくわかったかを整理し、グループで話し合ってみましょう。
- ただし、困難さはそれぞれのお子さんによって違います。「視覚障害＝このような見え方」といった、逆に視点を狭めてしまう考えにならないように、注意しましょう。

③ 体験を通して、有効だと思った園での現在の工夫を書いてみましょう。

ポイント🔒

- 普段の工夫を根拠づけられると、合理的配慮が「新しくしないといけないこと」ではなく、「今やっている工夫も含まれること」として、先生たちの負担感の軽減や実践の裏付け・自信につながります。

④ 体験を通して、加えたい、やってみようと思った園での工夫を書いてみましょう。

ポイント🔒

- 子どもたちの視点に立って支援を考える際に、想像では限界がある場合が多いでしょう。実際に子どもたちの視点を「体験」することで新たに気付くことができます。
- 疑似体験が大切だということではなく、「当事者視点」をもち、子どもたちのことや子どもたちが困っていることをより具体的にイメージすることが、工夫につながるということの実感となると良いでしょう。

- 今回紹介している疑似体験は一部ですが、他にもさまざまな疑似体験が考えられます。「こんな子の疑似体験がないかな」という声が挙がったら、調べてみると良いでしょう。

ファシリテーター用

見えにくさの疑似体験

準備物

- アイマスク、メガネ（度が入っていないもの）、リップクリーム

ファシリテーターの指示内容		ポイント
<p>(全盲体験の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験者に、アイマスクを配ります。 	<p>(弱視体験の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験者に、メガネとリップクリームを配ります。 メガネのレンズ部分にリップクリームを塗ってもらいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生から「～かな」といった予想の言葉が出たら拾って共有すると良いでしょう。予想を立ててから、体験をすると、気づかなかったという発見につながるかもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> 「今から、このアイマスク／メガネをかけて、子どもたちが日常生活でよく使うところや、よくある活動を体験してみましょう」 体験者に、アイマスク／メガネをかけてもらいます。 「それでは、教室を出て、廊下に出ましょう」 		
<p>【①教室のプレート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室を出て、廊下に集まります。 「では、まずはこの教室が何組さんのクラスなのか、教室のプレートを見てみましょう」 「どんな風に見えましたか？」 		<ul style="list-style-type: none"> 園内の何気ない案内でも、文字やイラストが見えにくいとわかりづらいことがたくさんあることがわかります。 イラストだとどのような大きさ・色だと見えやすいか、文字だとどのような大きさ・フォントだと見えやすいかなどの視点を加えても良いでしょう。 どのような工夫があると、見えにくくてもわかりやすいのか、疑似体験後にアイデアを出し合っても良いでしょう。
<p>【②トイレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内の子どもたちが使うトイレに移動します。 「では、次はトイレに行ってみましょう」「トイレには、どっちが男の子でどっちが女の子か、表示してあると思います」 「どんな風に見えましたか？」 		
<p>【③ポスター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内に掲示しているポスターがあるところに集まります。 「(例)トイレの前の水道には、手洗いの仕方が書いてあるポスターがあります」 「どんな風に見えましたか？」 		
<p>【④ロッカー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初にいた教室に戻ってきます。 「教室の中には、お子さんそれぞれのロッカーがあります」 「どこが誰のロッカーでしょうか？」 		
<p>【⑤絵本の読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初にいた教室に戻ってきます。 「それでは、最後に絵本の読み聞かせをします」「私が読み聞かせをするので、先生たちはいつも子どもたちが座っているところに座ってください」 淡い色合いの絵本や、色の明暗が強い絵本など、数種類の絵本で読み聞かせの模擬をします。 		<ul style="list-style-type: none"> 弱視のお子さんは、淡いコントラストの絵だと、細かい部分は見えづらい場合があります。 色の明暗がはっきりしている絵本だと、全体像を捉えやすく、何が書いてあるのか比較的わかりやすいです。
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、感想の共有や振り返りをしましょう。 		

ファシリテーター用

聞こえにくさの疑似体験

準備物

- 耳栓、ノイズ音や音楽が流せる機器（スマートフォン、ラジオなど）


ファシリテーターの指示内容		ポイント
<p>(全聾体験の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験者に、耳栓を配ります。 	<p>(難聴体験の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンで動画サイトからノイズ音や音楽を流します。また、ラジオでチャンネルを合わせずにノイズを流す方法もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生から「～かな」といった予想の言葉が出たら拾って共有すると良いでしょう。予想を立ててから、体験をすると、気づかなかったという発見につながるかもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> ・「今から、子どもたちが日常生活でよく使うところや、よくある活動を体験してみましょう」 ・体験者に、耳栓をつけてもらう／スマートフォンからノイズ音や音楽を流します。 ・「それでは、教室を出て、廊下に出ましょう」 		
<p>【①教室のプレート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を出て、廊下に集まります。 ・「では、まずはここの教室が何組さんのクラスなのか、教室のプレートを見てみましょう」 		<ul style="list-style-type: none"> ・音声での指示が聞こえにくいので、次にどこに行くか、何をしているかがわからないという点を体験できると良いでしょう。 ・どのような工夫があると、聞こえにくくてもわかりやすいのか、疑似体験後にアイデアを出し合っても良いでしょう。
<p>【②トイレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の子どもたちが使うトイレに移動します。 ・「では、次はトイレに行ってみましょう」 		
<p>【③ポスター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内に掲示しているポスターがあるところに集まります。 ・「(例)トイレの前の水道には、手洗いの仕方が書いてあるポスターがあります。トイレから出たら手をしっかり洗いましょうね」 		
<p>【④絵本の読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初にいた教室に戻ってきます。 ・「それでは、最後に絵本の読み聞かせをします」「私が読み聞かせをするので、先生たちはいつも子どもたちが座っているところに座ってください」 ・絵本の読み聞かせの模擬をします。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、感想の共有や振り返りをしましょう。 		

ファシリテーター用

動きづらさ・かきづらさの疑似体験

準備物

- 鉛筆、クレヨン、鏡、コの字型段ボール箱、迷路がかいてある紙または白紙

「運動会の絵を描いてみよう」	
ファシリテーターの指示内容	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> • クレヨン、鏡、コの字型段ボール箱、白紙を配付します。 • 鏡、コの字型段ボール箱、白紙をイラストの通り設置してもらいます。 	<ul style="list-style-type: none"> • 先生から「～かな」といった予想の言葉が出たら拾って共有すると良いでしょう。予想を立ててから、体験をすると、気づかなかったという発見につながるかもしれません。
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファシリテーターは先生役として導入をします。 • 「日曜日は運動会だったね」「みんなはどの競技が楽しかったかな」 • 運動会の思い出について、絵を描くよう指示をします。「では、運動会で楽しかった出来事を書いてみよう」 	
<p>【絵を描こう】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 参加者には、鏡を見ながら、運動会についての絵を描いてもらいます。 • ただし、参加者には、手元の白紙ではなく、白紙が映っている鏡を見ながら、絵を描くように指示をします。 • 参加者が描いている途中で、ファシリテーターは「〇〇くんの太陽は、まんまるじゃなくて、角がいっぱいなんだね」「この人、頭と身体が反対についているよ」などの声かけをします。 	<ul style="list-style-type: none"> • 声かけの際に、参加者が「こう描きたかったのに、思うように描けなかった」という部分について言葉をかけると、思うようにできないもどかしさや、そのことでのストレス負荷に関する体験にもなります。
<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを用いて、感想の共有や振り返りをしましょう。 	

「迷路で遊ぼう」	
ファシリテーターの指示内容	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> • 鉛筆、鏡、コの字型段ボール箱、迷路がかいてある紙を配付します。 • 鏡、コの字型段ボール箱、紙を「運動会の絵をかいてみよう」と同じように設置してもらいます。 	
<p>【迷路で遊ぼう】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 参加者には、鏡を見ながら、迷路を鉛筆で書きながらといてもらいます。 • ただし、参加者には、手元の紙ではなく、紙が映っている鏡を見ながら書くように、指示をします。 • 参加者が描いている途中で、ファシリテーターは「〇〇くん、早くしなさい」などの声かけをします。 	<ul style="list-style-type: none"> • 急かすような言葉をかけると、思うようにできないもどかしさや、そのことでのストレス負荷に関する体験にもなります。
<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを用いて、感想の共有や振り返りをしましょう。 	

ファシリテーター用

言葉の理解しづらさの疑似体験

準備物

- 特にありません

ファシリテーターの指示内容	ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターは先生役、参加者は幼児役として、朝の会の模擬を行うことを説明します。 オノマトペやカタカナの単語などから、お題となるキーワードを1つ決めます。「〇〇先生、好きなオノマトペを1つ挙げてください／最近よくニュースで聞く“オリピック”をキーワードにしてみましょうか」 決めたキーワードの単語だけを発声言語として、朝の会の模擬を行うことを説明します。「では、このキーワードだけを使って、朝の会をします」「先生が発する言葉は、このキーワードだけです」「みなさんは、その先生の指示を聞きながら、朝の会に参加してください」 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードは、ファシリテーターが決めても構いませんし、参加者に1つ単語を挙げてもらっても構いません。その時期に話題となっている時事ネタから拾っても良いでしょう。
<p>【朝の会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターは、決めたキーワードだけを発声しながら、下記の朝の会の流れを想定して、先生役で模擬朝の会をしてください。 <p>例キーワード：キラキラ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キラキラキラ（朝の会始めるよ）」と声をかける。 「キラキラ（座ってね）」と声をかける。 「キラキラ、キラキラキラ（みなさん、おはようございます）」と言い、幼児役の参加者が「おはようございます」と返す間を空ける。返事がない場合は、「キラ？キラキラキラ（あれ？挨拶の声が小さいな）」と言い、もう一度挨拶するよう促す。 日付が書いてある黒板や日付カードを指しながら、「キラキラ、キラキラキラキラ（今日は、〇月〇日〇曜日です）」と言います。 1日の流れの話をします。「キラキラ、キラキラ…（今日は天気がとってもいいですね）（この後は、帽子をかぶってお外で遊びましょう）（10時になったら、お片付けをして、お部屋で絵本を読みましょう）（お茶を飲むのを忘れないでね）」 	<ul style="list-style-type: none"> 身振りが全くないとき、身振りがあるとき、表情や視線がある場合ない場合など、言葉以外の要素を変化させてみるのも良いでしょう。
<ul style="list-style-type: none"> キーワードでの模擬朝の会が終わったら、ファシリテーターから、どのような内容の指示やお話をしていただいたのかを伝えましょう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、感想の共有や振り返りをしましょう。 	

本教材は、文部科学省の令和4年度「幼児教育施設の機能を生かした
幼児の学び強化事業」（特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実
に関する調査研究）の委託研究として、
国立大学法人 愛媛大学が研究成果の一部をまとめたものであり、本
教材の複製、転載、引用等については文部科学省の承諾が必要です。